Text/Atsushi TAMADA　CG/Kenta KITAGAWA（ldk）, Soma YOKOI　Drafting/Reo KIRIBUCHI

Monthly Theme

防波堤を超える視界を獲得できる
スーパーフラットハウスの優越感

スパイクのような鋼管杭を応用した高床式工法『スパイキーLGS』を使って防波堤の高さまで“ふわり”と浮かび上がる平屋を考えてみました。海を眺めながらのテレワークが気持ちいい！

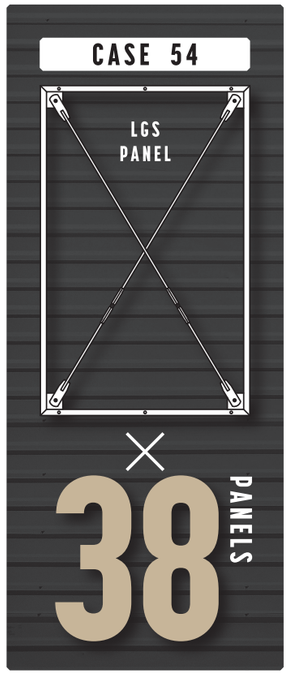
最近、“仕事の質”が変化したという話をよく耳にします。コロナ禍の初期は、不自由ながらも導入したテレワークですが、よく考えてみると、通勤の満員電車に乗って通う必要がないということは、世紀の大変化でした。身体を運ばなくても仕事ができるということは、仕事から“嫌なこと”の要素が消えるということ。必然と“仕事”と“楽しいこと（遊び）”の境界線がますます曖昧になるのです。「価値を創造できるか？」が、これからの“仕事”のキーワードなのかもしれません。気持ちのいい海の風に吹かれながら、豊かな発想で創造的な仕事をする。それが当たり前に可能な時代がすぐそこまで来ています。

そんなわけで、今回は東京都心から1時間余りで行けてしまう房総半島、館山での週末住宅について考えてみます。海を見ながら仕事をしたいのですが、実は海岸線には防波堤や防風林があって、そう簡単に海は見えないのが実情。土地は広いのにわざわざ2階建ての家にするのも癪に障ります。プロポーションの美しい平屋がいいのです。そこで『スパイキーLGS工法』が威力を発揮します。

先端に羽の付いた鋼管杭を地面に打ち込み、地上から2mくらいのところに鉄骨の土台をまわして、ミッドセンチュリースタイルの平屋を建てる。視線で防波堤を超えてしまう訳です。海に向かって開け放たれた大開口からは純粋な海と水平線だけが見える。ふわりと浮かび上がった建物のプロポーションの美しさは、いつまでも愛着を持続して、住まい手の人生をますます豊かなものにしてくれることでしょう。

デイトナが提案する
新しい建築のカタチ

DH×L
DAYTONA HOUSE×LDK



What's DAYTONA HOUSE？

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2㎜、幅12.5㎝、厚み5㎝の『Cチャンネル』と呼ばれる部材を、横幅180㎝、縦270㎝の長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、『ブレース』と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。“柱”と“梁”と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGSパネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かりやすさと、パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

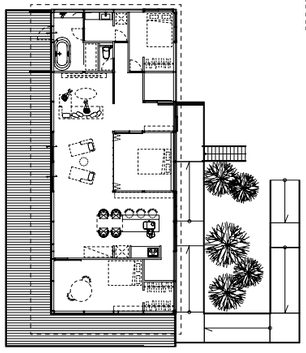
www.daytona-house.com

INFORMATION
LDKinc.
代表：玉田敦士
www.ldk.co.jp
03-6228-4933

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc。建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

FLOOR PLAN

この家の平面図もいたってシンプル。余分な要素を極力排除した一体空間。その潔さがこの家の価値をむしろ高めます。大自然の雄大な風景との関係において居住空間を設計すること。その作法を借景という。また、その慎ましさを“和”と呼ぶのです。



リビングの大開口からバルコニー越しに海と水平線と空を望む。海岸の防波堤はこの視線の下。この純粋な海の風景はありそうでない貴重なビジュアル。それだけ価値も高い。まさに時々刻々表情を変える大海原がこの家の庭なのです。必然的に頭はクレバーになり、仕事もはかどり、良いことばかり。

INTERIOR

鋼管杭で浮かびあがった平屋のプロポーション。その向こうに純粋な海と空が。圧倒的な色彩の大自然を背景にした謙虚な建築の姿は住み手の愛着をますます増幅します。発想を転換すると現代的な桂離宮に見えてくるかも。因みに杭の地上高さの限界は地盤強度によって変化します。

EXTERIOR

Text/Atsushi TAMADA

次世代のモーターコミュニティ G-HANGAR1821が千葉市に誕生

“洗車場のあるガレージ賃貸”として ご紹介していた千葉市中央区の モーターコミュニティ『G-HANGAR1821』が オープンし、入居が始まりました。 ここはエネルギッシュな遊動民たちの 解放区なのです。

千葉市中央区道場北。それがこのたびオープンした、デイトナハウス初のモーターコミュニティ『G-HANGAR1821』の所在地です。

この場所の最寄り駅は千葉駅ですが、徒歩15分ほどの距離で駅から至近という印象はありません。周辺には一般的なアパートやワンルームマンションの集積はあるものの、とりたてて特徴のある場所ではなく、都市近郊によくあるパターン。畑も多かった土地柄に、町工場ができて、時代の変化で賃貸住宅群に変化した戦後ニッポン的“風景”。いわば見飽きた風景なのです。

単体のアパートではなく 活発な動きのある“場所＝ゾーン”を 企画するということ

この土地も、もともとは町工場が立地していた変形の敷地です。それをいかに効率的に利用するか？ ということがテーマでした。「土地の効率的利用という言葉」、それは少し前までは、比較的利便性のいい場所に画一的でローコストな“アパート”を建てれば、そのうち誰かは賃借するだろう……というもの。これが従来型の“大家さん”の考え方でした。

しかし、同じ発想で同じ規格のアパートが量産され、今では供給過多。古いものから空室が出て必然的に家賃が下落する、という悪循環が顕在化しています。とりあえず“食べて寝るだけの場所”としてのアパートであれば、それが住んでいる人のエネルギーを増幅して、“場所として”輝くということは期待できなかったでしょう。何棟建築しようが、単体のアパート以外のものにはなりません。

明確なテーマとコンセプトを持った賃貸住居が、新しいライフスタイルを求める人のエネルギーを増幅する“場所＝ゾーン”になり、そのことが建物に対する愛着の持続をもたらす。結果的に長い間、元気な賃貸スペースとして活気を保ち続ける。これがデイトナハウスが提案したガレージ賃貸GLBの論理＝モーターコミュニティなのです。

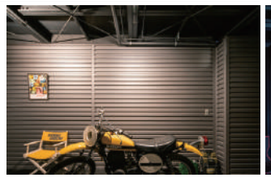
エネルギッシュで自由な生活の “解放区”としてのコミュニティ

国家が作った交通インフラに頼って“寿司詰め状態”で輸送されるのではなく、自分の意思で動く。ガレージ賃貸に住むという事はそのライフスタイル表現です。コロナ禍で“密”を禁じれば禁じるほど、自分で動くための出撃基地＝BASEの需要は高まります。さらに住居形式のGLB以外にも、様々なタイプのガレージが一つの“場所”を共有するコミュニティを形成。このようにここは、コロナの影響で急激に加速し始めたの時代の変化をエネルギッシュに乗りこなす人たちにとって、“解放区”として存在する場所なのです。

余分な虚飾を排した鉄骨の空間に、表情のあるクルマやバイクが格納された瞬間、ガレージの意味は、単なる乗り物の置き場ではなく、居場所という意味での“居室空間”に変化。シンプルなテンションのコントラストが、飽きの来ない長年の愛着を作り出します。

GARAGE

2×4スパン（1スパン1.8m）、面積8坪のガレージ空間には、クルマ1台バイク2台が格納可能。バイクだけならば4台は悠々に格納できる面積。色調を抑えた鉄骨空間に、マシンのヴィヴィッドな差し色が一層映えて、コントラストがたまりません。



ガレージ内部の壁面は、一般に片側が鉄骨フレームとチャコールグレーのケイ酸カルシウム板。片側がガルバリウムの外壁素材。それが交互に現れます。

ROOM

賃貸住居2Fは、いずれも吹き抜け空間になっており、鉄骨の素材感のアクセントが独特の空間性を感じさせてくれます。大型ギア類の格納にもうってつけの豊かな空間。写真のようなロフト上から空間を見渡す目線は賃貸住居では珍しい。

BIKE GARAGE

バイク専用ガレージも、大きさが2タイプ存在。最も数の多い小さな面積の区画でも、鉄骨空間のインダストリアル感が十分に感じられる空間性。FASブラケットも完備しているので、思う存分、ディスプレイが楽しめます。単なるバイク置き場ではない、小さな秘密基地としてのポテンシャルは十分です。

居室空間内の壁面は、あえて艶消し鉄骨と同系色のチャコールグレーで統一。これによって室内に持ち込む愛着の品々の色合いが一層引き立つ趣向。

WASHER MACHINE

コミュニティ内の各種のガレージ利用者が共有で使用できる、ハイプレッシャーの高圧洗車機も設置されています。ワンコイン100円で5分間。休日の朝、洗車しながら、ごく自然な会話が生まれるうれしいコミュニティ感。

“ふわり”と浮かぶ高床式モデルハウスが、遂に軽井沢追分にオープン

都心から新幹線で1時間。クルマでも2時間の距離にある軽井沢は、コロナ後のテレワークの普及以降、すっかりその位置づけを変えて、旧来の“別荘地”から二拠点生活（デュアルライフ）のメッカに変貌しつつあります。その軽井沢にいよいよ、デイトナハウスの高床式平屋のモデルハウスがオープンします。正統派ミッドセンチュリースタイルの浮遊感のあるフォルム。縦横比率を意識した美しいプロポーションが、新緑の森の中に浮かび上がります。もちろんスタイリッシュな鉄骨ガレージも装備。新しい暮らしのカタチとイメージを、是非実感してください。次回のオープンハウスは、7月に開催予定。詳しくはデイトナハウスのHPをご確認ください。

モデルハウスに関する お問い合わせは こちらから ►►►